

まさか、まさかの…

〈今月の聖句〉「わたしたちは主のもの、その民、主に養われる羊の群れ」
(詩篇100:3)

つくし保育園では、季節を舌から感じます。
白く透きとおった細みのたんざく
舌にのせるとやわらかく、とろーりあまいのは
この間、収穫したばかりの玉ねぎです。
お次は、ほかほかごはんの合間にこっそり隠れてる
つぶつぶ、ぷりぷりの、青いお豆さん
こぼさぬように箸ですくい、口へ。
ぶちっ。噛むと広がる、春のさわやかな香り。

つくしの庭の畑では、先月から早くも秋の準備が始まりました。
子どもたちと畝をたよりに一本一本植えたのは
寒くなるころ、はらはらと笑顔でほおぼる
さつま芋の苗。今はひょろり、でもやがて大きく立派なお芋になって。
このように季節を通じ、大地の豊かなめぐみをとどけてくれる
つくしの畑の野菜たち。これからも続々、今から楽しみだなあ。

ところが…
そんな畑で昨年秋頃から事件が多発しました。
丹精込めたお芋が、玉ねぎが、トウモロコシが…食べられている！
だれ、してかしたのは？ アライグマ？ タヌキ？ おサルさん？
不明のまま半年。そして昨日、ついに仕掛け檻にかかったその顔は…
まさかのニホンアナグマ。観念したのか、しおらしくうずくまってる。
見つけた子どもたちも目をまん丸くして、のぞきこんでいる。
その“珍客”の表情は、どことなくユーモラス、なんとなく憎めない。
なので業者のおじさんに頼んで遠くの山奥に放ってもらうことに。
そっちでも元気で、静かに暮らしてね！

(つくし保育園園長 つだかずお)

〈花の日こどもの日礼拝のご案内〉

6月25日(日) あさ10時30分 だいが教会(お庭のチャペル)
季節のみずみずしいお花に囲まれて守る礼拝。

いのち育む神様に捧げる子どもミニコンサート。お菓子もあるよ。